

公共汚水柵および取付管布設工事の注意事項

・工事写真の整理は下記『工事写真撮影項目』を標準とする事。

【工事写真撮影項目】

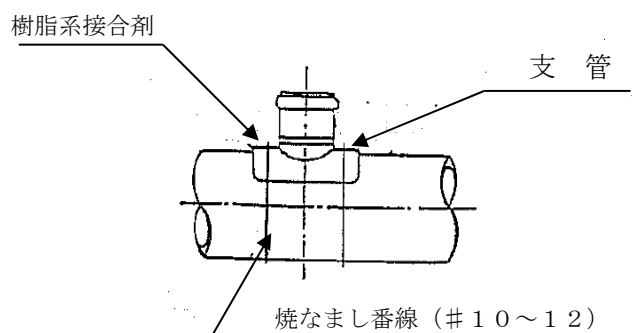
- (1) 着工前
- (2) 掘削中
- (3) 削孔中（ホルソー使用中）
- (4) 削孔後（取付管の間隔は1 m以上離れた位置とし、同一掘削断面内で2個以上支管を取付ける時は離隔の分かる写真）
- (5) 削孔周辺、サドルの接着剤塗布状況
- (6) サドルセット、番線結束状況
- (7) 砂（スクリーニングス）埋戻し
- (8) 碎石埋戻し
- (9) 埋設標示テープ敷設
- (10) 配管、柵設置状況
- (11) 転圧
- (12) 舗装
- (13) 竣工

※(4)、(5)、(6)が不明瞭な場合は再度掘削立会いで確認します。
なお、(4)の離隔不足及び(6)でビス留め等の場合は影響範囲の本管からやり直してもらいます。
指定工事店の場合は登録を一時停止又は取り消す場合もあります。

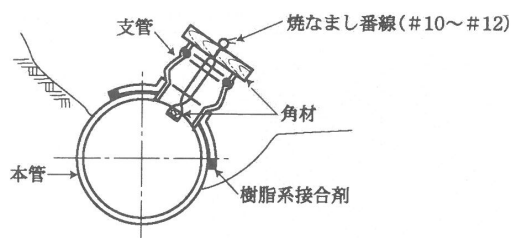
・配管材料は下水道用硬質塩化ビニル管(VU)を使用すること。

・支管接合の際は、支管接合標準図に示すように焼きなまし番線を締め込み支管を圧着すること。なお、大口径管等本管に番線を巻けない場合は接合部の内外に角材を当てて番線で圧着することとし、原則、ボルト固定は行わないこと。

【支管接合標準図】

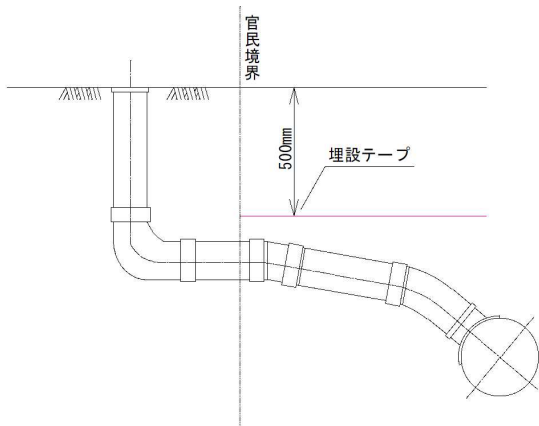


【番線を巻けない場合】

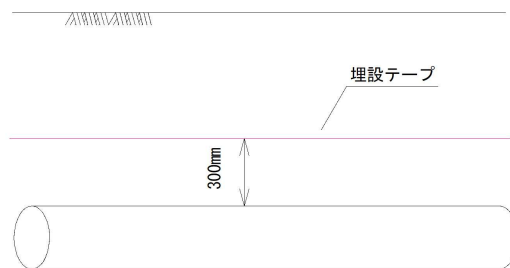


- 埋設標示テープは所定の位置に必ず敷設すること。

【取付管の場合】
地盤面より0.5m下がりの位置



【本管の場合】
管頂より0.3mの位置



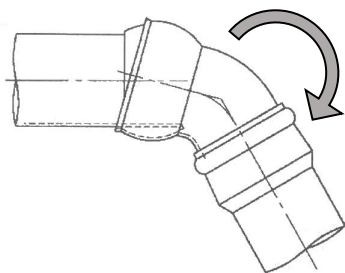
- 戸建住宅以外の駐車場等に汚水柵を設置する場合、汚水柵蓋は防護ハット構造とすること。

- ワンタッチ支管の使用は原則として禁止とする。

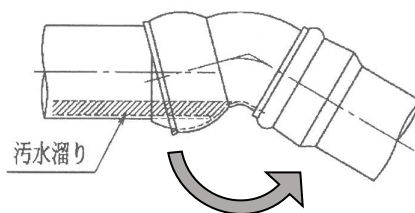
- 取付管穿孔に当たっては、隣接する取付管口との離隔を1m以上確保すること。また、人孔近接箇所においては、人孔躯体との離隔を0.5m以上確保すること。

- 自在受口継手を使用する場合、曲り角度を小さくする方向で使用しないこと。

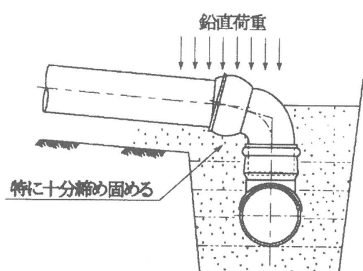
【正しい使用例】



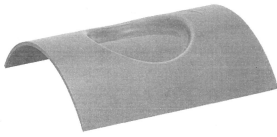
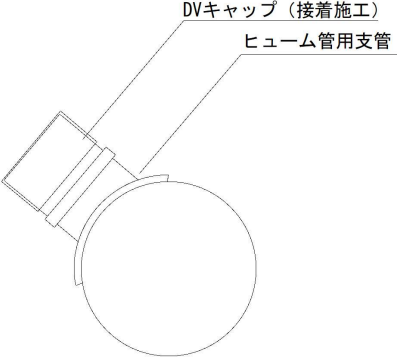
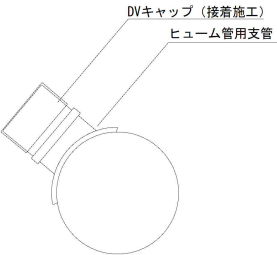
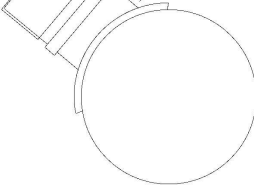
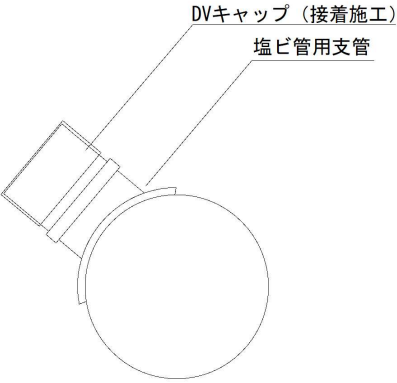
【誤った使用例】



- ゴム輪受口継手および自在受口継手を使用する場合の埋戻しにあたっては、継手の周辺、特に下側を十分突き固め沈下や折れ曲がりを防止すること。



- 公共枿および取付管を撤去する場合は本管および既設取付管の管種に応じて以下のように処理すること。

		取付管管種	
		陶管	VU管
本管管種	ヒューム管	 <p>閉塞キャップ</p>	 <p>DVキャップ (接着施工) ヒューム管用支管</p>
	ヒューム管	 <p>DVキャップ (接着施工) ヒューム管用支管</p>	 <p>DVキャップ (接着施工) ヒューム管用支管</p>
	VU管	<p>該当なし</p>	 <p>DVキャップ (接着施工) 塩ビ管用支管</p>

○取付管 管径 a

取付管の最小管径は150mmとする

①分流区域

排水人口 (人)	300未満	600未満	600以上
管径 a (mm)	150以上	200以上	250以上

②合流区域

排水面積 (m ²)	600未満	1,000未満	1,000以上
管径 a (mm)	150以上	200以上	250以上

③排水量の特に多い箇所

排水量 (m ³ /日)	1,000未満	2,000未満	4,000未満	6,000未満
管径 a (mm)	150以上	200以上	250以上	300以上

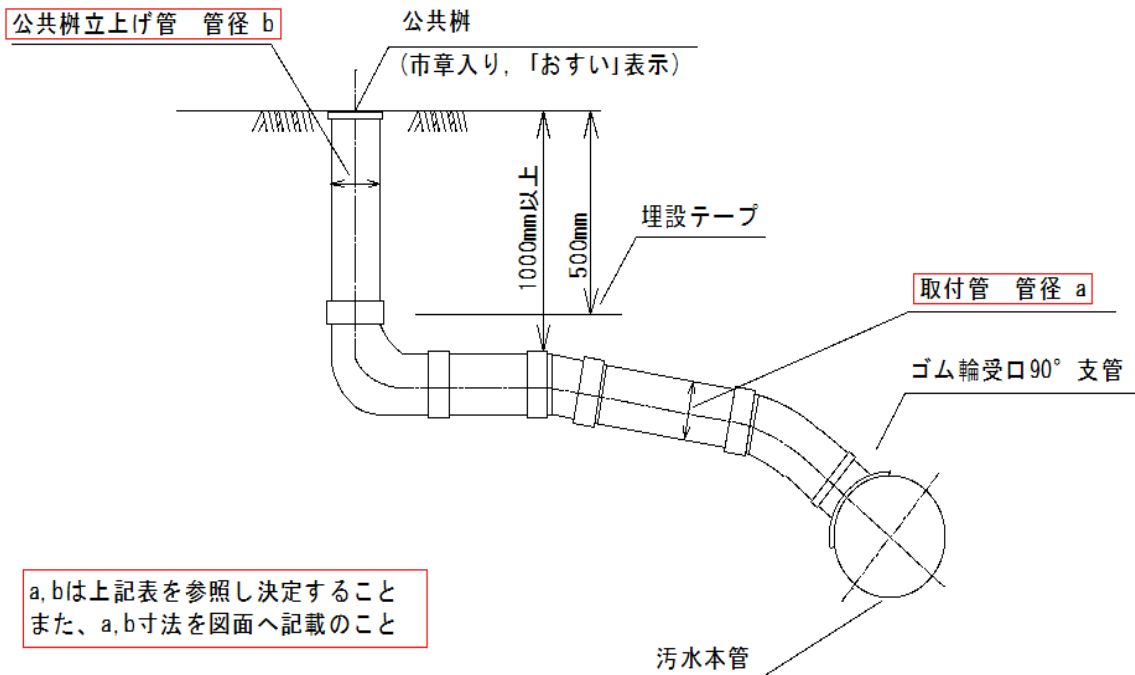
この区分を超える場合は伊丹市排水施設技術基準第2章1,2より算出すること

○公共樹立上げ管 管径 b

公共樹立上げ管の最小管径は150mmとする

管径 a (mm)	150	200	250	300
管径 b (mm)	150	200	300	300

この区分を超える場合は管理者が管理上必要と認める管径とすること



断面図 例